

addpoint **MailWallServer**

V7.2 for VMware

ご利用の手引き

NECソフト

本書の一部あるいは全部について、NECソフト株式会社の事前の承認なく、複製、転載することを禁止します。

目 次

1. ご利用になる前に.....	5
1.1. AddPointについて	6
1.2. AddPointとGUARDIANWALL	7
2. 環境設定	8
2.1. システム設置.....	9
2.1.1. AddPoint 導入イメージ	9
2.1.2. AddPointの起動.....	10
2.2. AddPointの稼働状況確認.....	11
2.2.1. システムの稼働状況確認	11
2.3. GUARDIANWALLの設定.....	12
2.3.1. GUARDIANWALLへのログイン	12
2.3.2. GUARDIANWALLの稼働状況確認	14
2.3.3. 全文検索インデックス作成設定	15
2.3.4. 管理者の登録.....	16
2.3.5. スケジューラーの登録	16
2.3.6. メールを保存させる	17
2.3.7. フィルタリングをおこなう.....	17
2.3.8. 暗号化をおこなう	17
2.3.9. テストメール中継確認.....	18
3. 運用	21
3.1. バックアップ/リカバリについて	22
3.1.1. システム設定のバックアップ	22
3.1.2. メールアーカイブデータの保存ディレクトリ	23
3.1.3. バックアップの運用	24
3.1.4. バックアップ手順.....	25
3.1.5. リストア手順	26
3.2. AddPoint Manager	27
3.2.1. AddPoint Managerでできること	27
3.2.2. AddPoint Managerへの接続.....	28
3.2.3. パスワード変更	29
3.2.4. システム状態表示	30

3.2.5.	システムアップグレード	32
3.2.6.	時刻設定	34
3.2.7.	システムログ参照	35
3.2.8.	メールログ参照	37
3.2.9.	システム設定	38
3.2.10.	システム設定バックアップ	39
3.2.11.	システム設定リストア	40
3.2.12.	システムの再起動/停止	42
3.2.13.	ログアウト	43
3.2.14.	GUARDIANWALL 画面の呼び出し	44
4.	設定変更/システム復旧	45
4.1.	システム設定の変更	46
4.1.1.	システム設定画面の起動	46
4.1.2.	ネットワーク情報設定	47
4.1.3.	hostsファイル設定	50
4.1.4.	アクセス制御設定	51
4.1.5.	メール転送設定	53
4.1.6.	GUARDIANWALL設定	55
4.2.	システム復旧	56
4.2.1.	インストール媒体からの再デプロイ	56
4.2.2.	システム設定の復旧	56
4.2.3.	メールアーカイブデータのリストア	57
5.	QA	58
5.1.	ネットワーク関連	59
5.1.1.	AddPoint にアクセスできない	59
5.1.2.	メールが送信されない	60
5.2.	AddPoint Manager関連	62
5.2.1.	障害解析情報をダウンロードできない	62

1. ご利用になる前に

本書では、お客様が初めて本製品を利用されるにあたって、基本的な手順を解説してあります。

本書をよく読んでから、作業にあたってください。また、本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

1.1. AddPointについて

AddPoint/MailWallServer for VMware(以下 AddPoint と表記)は、メールセキュリティソフトウェア「GUARDIANWALL」を搭載した仮想アプライアンスサーバです。

以下のような特長を持っています。

特長 1 簡単に導入

Web ブラウザから各種ネットワーク設定がおこなえます。Linux OS やセキュリティの最適化、ソフトウェアのインストールなどを設定済みです。

特長 2 安定した動作

チューニングをおこなっているため、高安定性、高信頼性を実現しています。

特長 3 容易な運用管理

Web ブラウザを利用した運用管理、およびシステム設定が変更できます。

特長 4 迅速な復旧

インストール媒体からの OVF テンプレートの再デプロイにより、ハードディスク障害発生時には導入時の状態まで素早く復旧できます。

また、管理ツールの「システム設定のバックアップ/リストア」機能を利用することで、障害発生時直前のメールフィルタリング設定を復旧することができます。

1.2. AddPointとGUARDIANWALL

本製品は、管理サーバー、検査サーバーおよび全文検索システムが同筐体で稼動する構成となっています。

2. 環境設定

この章ではお客様が運用を開始するまでに必要な作業をまとめてありますので、クイックスタートとしてご利用いただけます。

また、障害復旧時の再デプロイ後の動作確認手順としてもご利用いただけます。

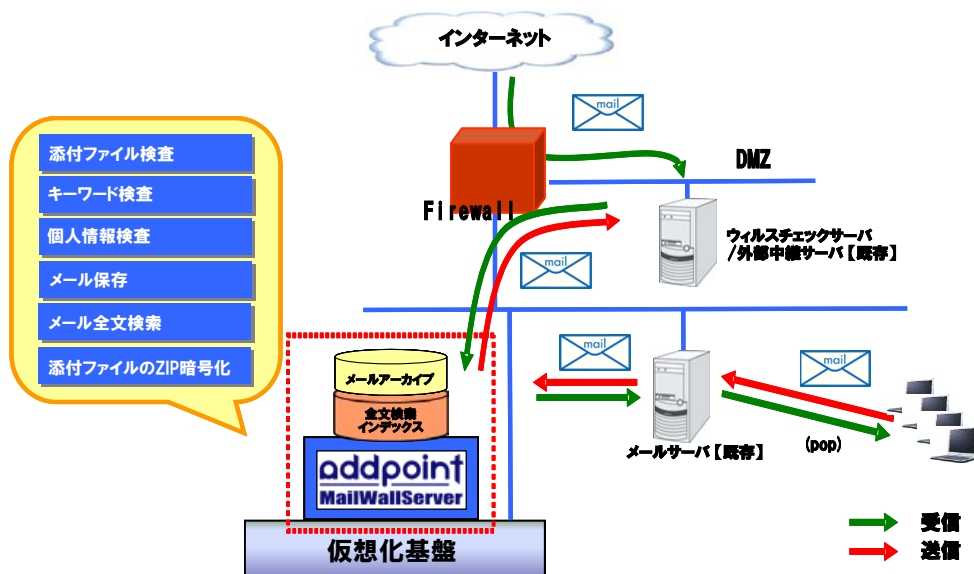
2.1. システム設置

2.1.1. AddPoint 導入イメージ

キーワード検索や添付ファイル検査をおこなう検査サーバーと、保存されたメールの閲覧やメールのバックアップをおこなう管理サーバーが同筐体にあります。

また、全文検索システムが追加機能として搭載されており、メール本文や添付ファイルに対して、全文検索をおこなうことができます。

下図を一例に適切な配送経路に設置してください。



2.1.2. AddPointの起動

仮想マシンを起動します。

各種システム出力の後に以下のような画面※が表示されると、起動は終了です。

```
Red Hat Enterprise Linux Server release 5.5 (Tikanga)
Kernel 2.6.18-194.el5 on an i686

addpoint login: _
```

※ パッチの適用状況や、製品のバージョンアップによる仕様変更によって、番号や名称などが異なる場合があります。

2.2. AddPointの稼動状況確認

2.2.1. システムの稼動状況確認

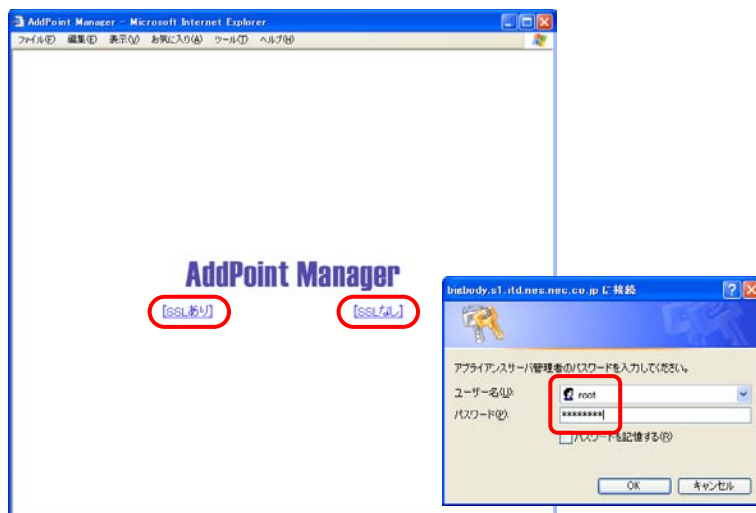
- ① ネットワークに接続しているコンピュータの Web ブラウザにて

http://IP アドレス:1446/addpoint/

に接続します。AddPoint の IP アドレスが 192.168.0.100 の場合

「http://192.168.0.100:1446/addpoint/」となります。

- ② AddPoint Manager トップ画面が表示されますので、SSL 通信の有無に応じ、



「SSL あり」「SSL なし」のいずれかをクリックします。

- ③ 以下の情報を入力し、AddPoint Manager にログインします。

ユーザ名 : root

パスワード : 導入時システム設定画面で指定したパスワード

- ④ AddPoint Manager の左メニューから「システムの状態表示」をクリックし、グラフ等が表示されることを確認してください。また、1 分程度間隔をおいて再度表示し、グラフが更新されることを確認してください。



ルータやファイアウォールの設定によっては、AddPoint の Web 管理画面に接続できないことがあります。その場合は「5.1.1 AddPoint にアクセスできない」をご参照ください。

2.3. GUARDIANWALLの設定

2.3.1. GUARDIANWALLへのログイン

Web 管理画面へログインします。

- ① AddPoint Manager の左メニューの一番下にある「GUARDIANWALL」アイコンをクリックします。



注意

GUARDIANSUITE は GUARDIANWALL と WEBGUARDIAN を統合管理するシステムの名称ですが、本システムでは GUARDIANWALL の管理画面を指しています。

- ② GUARDIANWALL のログイン画面が表示されますので、「情報管理者」を選択し、以下の情報でログインします。



アカウント : admin

パスワード : 導入時システム設定画面で指定したパスワード



その他のアカウント設定は『GUARDIANSUITE 管理サーバー利用の手引き』「6-2-1 利用者管理」をご参照ください。



GUARDIANWALL の Web 管理画面は、一般的な HTTP/HTTPS ポートではなく 8080/8443 番を使用しています。このため、ルータやファイアウォールの設定によっては、AddPoint の Web 管理画面に接続できないことがあります。その場合は「5.1.1 AddPoint にアクセスできない」をご参照ください。



AddPoint Manager トップ画面にて「SSL あり」を選択すると、GUARDIANWALL の管理画面にも HTTPS にて接続をおこないます。「SSL なし」を選択した場合は、GUARDIANWALL の管理画面にも HTTP にて接続します。

2.3.2. GUARDIANWALLの稼働状況確認

GUARDIANWALL が稼働していることを確認します。「共通」→「検査サーバー管理」→「状況確認」をクリックし、「プロセス動作状況」が「稼働中」になっていることを確認してください。

The screenshot shows the GUARDIAN SUITE web interface. On the left is a sidebar menu with the following items: 共通 (highlighted with a red circle), 管理サーバー管理, 検査サーバー管理 (highlighted with a red circle), 状況確認 (highlighted with a red circle), 個別設定, 設定更新状況, 起動・停止, データ管理, 運用監査, メール, ウェブ, パスワード変更, and ログアウト. The main content area is titled '状況確認' and has a '共通' tab selected. Below the title, there is a message: '登録されている検査サーバーの稼働状況を確認できます。各検査サーバー単位で詳細情報を閲覧するには、[詳細]ボタンを押して下さい。' Below this is a table with the following data:

ID	ホスト名	IPアドレス	種別	プロセス動作状況	システム負荷	ディスク使用量	操作
1	addpointmws5.mailtest	172.16.156.71	メール	稼働中	1.70	4%	詳細

Below the table is a '再表示' button. At the bottom of the main content area, there is a copyright notice: 'Copyright(C) 2005-2006 Canon System Solutions Inc. All rights reserved.'

2.3.3. 全文検索インデックス作成設定

全文検索機能をご使用いただくには、全文検索インデックスを作成する必要があります。この機能を設定すると、インデックスが自動生成されます。

なお、初回実行時に対象となるメールアーカイブが多数存在する場合は、インデックス作成処理に非常に時間がかかることがあります。そのため、**AddPoint** を導入した時点から設定していただくことを推奨いたします。

- ① 「共通」-「管理サーバー管理」-「拡張機能」-「スケジューラー」タブへ移動してください。
- ② 「全文検索インデックス」を追加し、各パラメータを設定してください。
 なお、インデックス作成の対象となるのは前日までのアーカイブデータとなりますので、1日1回任意の時間をご指定ください。



操作方法は『GUARDIANWALL 全文検索システム利用の手引き』「1-2-3 拡張機能」をご参照ください。

2.3.4. 管理者の登録

GUARDIANWALL の管理者は下記の 4 種類があります。

管理クラス	初期アカウント	初期パスワード
情報管理者	admin	導入時システム設定画面で指定
部門情報管理者	ありません※ ¹	---
システム管理者	ありません※ ¹	---
利用者管理	usradm	usradm99※ ²

※¹ 「部門情報管理者」と「システム管理者」のアカウントは初期状態ではご用意しておりませんので、「利用者管理」にてアカウントを作成していただく必要がございます。

※² 本システムを安全にご利用いただくために、初回ログイン時に必ずパスワードの変更をおこなってください。



操作方法は『GUARDIANSUITE 管理サーバー利用の手引き』「6-2-1 利用者管理」をご参照ください。

2.3.5. スケジューラーの登録

GUARDIANWALL には、各種レポートの送出やバックアップの実施などをスケジューリングする機能があります。

デフォルトでは未設定ですので、必要な機能のみ設定してください。



操作方法は『GUARDIANSUITE 管理サーバー利用の手引き』「3-2-1-3 拡張機能」の「スケジューラー」をご参照ください。

2.3.6. メールを保存させる

GUARDIANWALL のメール保存機能は、導入直後および再デプロイ直後はメールを保存しない設定となっているため、デフォルトではメールを保存いたしません。

お客様環境に合わせたメール保存形式を設定してください。



操作方法是『GUARDIANSUITE 管理サーバー利用の手引き』「3-3-5-3 メール保存機能設定」をご参照ください。

2.3.7. フィルタリングをおこなう

GUARDIANWALL のフィルタリング条件である「ポリシー設定」は、導入直後は「中継」のみ設定されています。

お客様環境に合わせたメールのフィルタリング条件を設定してください。



操作方法是『GUARDIANSUITE 管理サーバー利用の手引き』「3-3-1 ポリシー設定」をご参照ください。

2.3.8. 暗号化をおこなう

GUARDIANWALL の添付ファイル暗号化設定は、導入直後は「オフ」と設定されています。

マニュアルにて仕様および注意事項をご確認の上、設定してください。



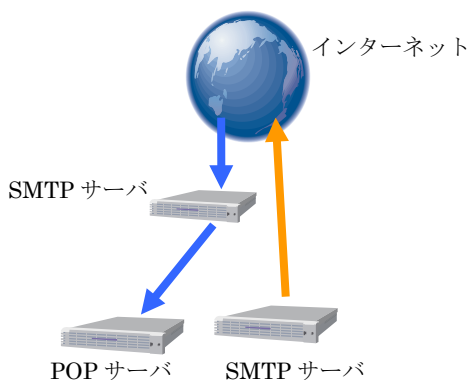
操作方法是『GUARDIANSUITE 管理サーバー利用の手引き』「3-3-5-4 添付ファイル暗号化設定」をご参照ください。

2.3.9. テストメール中継確認

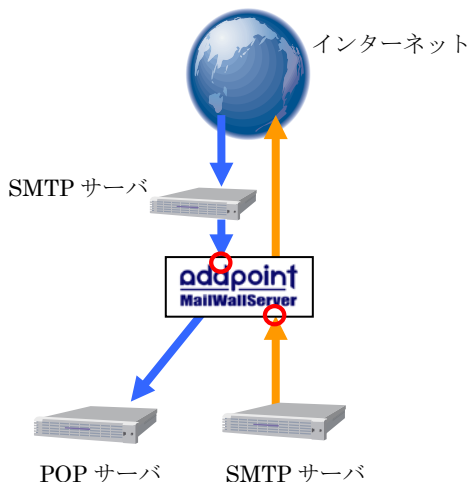
メールが正常に **GUARDIANWALL** にて中継されることを確認します。

- ① メールサーバのメール配送経路を変更し、**AddPoint** をメール配送経路に組み込みます。

■現在の配送経路の一例



■AddPoint を組み込んだ配送経路の一例



外部からのメールを受信する **SMTP** サーバと内部からのメールを送信する **SMTP** サーバ間に設置いただく経路が、標準となっております。

AddPoint の配送設定はすでに設定されていますので、前段にあるサーバの設定を変更してください。

- ② **AddPoint** にテストメールを送信します。

- ③ 「共通」-「検査サーバー管理」-「状況確認」-「詳細」をクリックしてください。

GUARDIAN SUITE

情報管理者メニュー
管理者名: admin

共通

■ 管理サーバー管理

◆ 検査サーバー管理

■ 状況確認

個別設定

設定更新状況

起動・停止

■ データ管理

■ 運用監査

メール

ウェブ

パスワード変更

ログアウト

状況確認

共通

登録されている検査サーバーの稼働状況を確認できます。
各検査サーバー単位で詳細情報を閲覧するには、[詳細]ボタンを押して下さい。

ID	ホスト名	IPアドレス	種別	プロセス 動作状況	システム 負荷	ディスク 使用量	操作
1	addpointmws5.mail.test	172.16.156.71	メール	稼動中	1.70	4%	詳細

再表示

Copyright(C) 2005-2006 Canon System Solutions Inc. All rights reserved.

- ④ 「メール配送状況」にて、テストメールが通過したことを確認してください。
また「sendmail Mail Queue List」に「/var/spool/mqueue is empty」と表示され、
テストメールが AddPoint のメールキューに蓄積されていないことを確認してくださ
い。

GUARDIAN SUITE

情報管理者メニュー
管理者名: admin

共通

■ 管理サーバー管理

◆ 検査サーバー管理

■ 状況確認

個別設定

設定更新状況

起動・停止

■ データ管理

■ 運用監査

メール

ウェブ

パスワード変更

ログアウト

状況確認 - addpointmws5.mail.test(メール)

共通

稼働状況

メール配送状況

ディスク使用量

システムログ

バージョン情報

メール配送状況 (2006-10-09)

時刻	発信者	宛先	サイズ	検査配送 ルール	動作
18:21:52	user01@mail.test	user01@mail.test	696	9999	中継

○ 発信者、宛先はエンベロープアドレスを表示しています。宛先が複数ある場合はリットク表示しています。

sendmail Mail Queue List (mailq -v)

/var/spool/mqueue is empty
Total requests: 0

○ mailq -v コマンドの出力から先頭20行を表示しています。

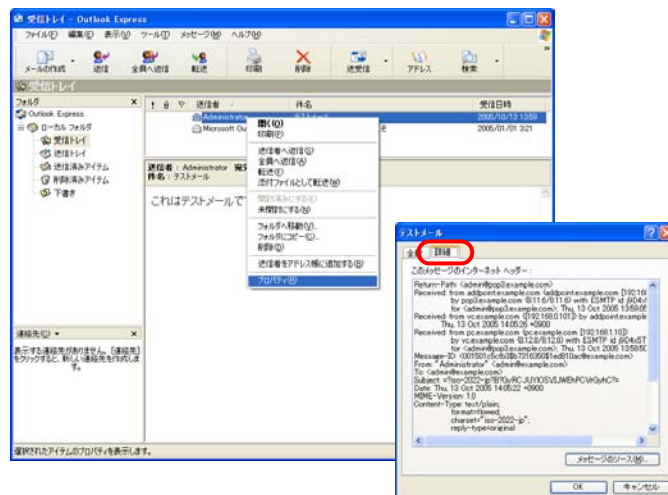
一覧に戻る

Copyright(C) 2005-2006 Canon System Solutions Inc. All rights reserved.

- ⑤ テストメールを受信し、ヘッダに AddPoint のホスト名を含んだ Received 行があることを確認してください。

```
Received: from addpointmws.mail.test [172.16.156.71]
    by pop3.example.com with ESMTP id NAA11938;
    Tue, 14 Mar 2007 15:45:38 +0900
Received: (from root@localhost)
    by addpointmws.mail.test (8.13.1/8.13.1) id jAF6B8fg017582
    for user@example.com; Tue, 14 Mar 2007 15:45:38 +0900
Received: from pc.example.com [192.168.1.10]
    by addpointmws.mail.test with SMTP id RAA17581;
    Tue, 14 Mar 2007 15:45:37 +0900
Message-ID: <437AA0FC.8020802@example.com>
～ 略 ～
```

Outlook Express の場合、受信したメールを右クリックし、「プロパティ」－「詳細」で確認できます。



- ⑥ メールの保存をおこなっている場合、「メール」－「保存メール管理」－「メール閲覧」で対象のメールが保存されていることを確認してください。

以上の確認が完了すれば、正常に稼動しています。

3. 運用

AddPoint は容易なシステム復旧を可能にする機能を提供していますが、復旧するデータが存在しなければ意味を成しません。

本章では、まずバックアップ方法に関する運用についてご案内いたします。必ず適切にバックアップを取得し、保管してください。

次に、**AddPoint Manager** によるシステム管理についてご説明いたします。**AddPoint Manager** を使用することで、システムの運用を **Web** ブラウザから視覚的にこなうことが可能です。

3.1. バックアップ/リカバリについて

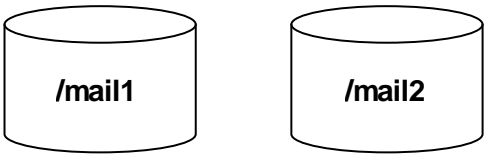
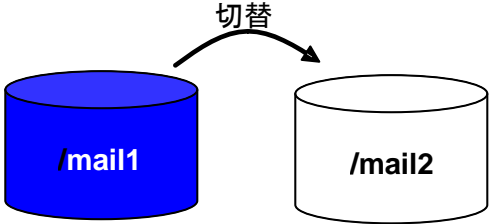
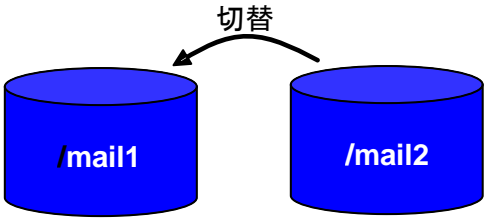
3.1.1. システム設定のバックアップ

AddPoint や GUARDIANWALL の設定を変更した際に、「システム設定バックアップ」を取得することをお奨めいたします。以前の設定に戻す場合や障害時の復旧の際に、システム設定をリストアすることにより復元が可能になります。

操作方法は「3.2.10 システム設定バックアップ」をご参照ください。

3.1.2. メールアーカイブデータの保存ディレクトリ

GUARDIANWALL はメールアーカイブデータを保存する際、下記のような動作をします。

1		<p>出荷状態またはリカバリ直後は /mail1、/mail2 にメールアーカイブデータは保存されておりません。</p> <p>運用を開始すると、/mail1 からメールが保存されます。</p>
2		<p>/mail1 の容量が 100%になりますと、自動的に /mail2 に保存されるよう保存ディレクトリが切り替わります。</p>
3		<p>/mail2 の容量が 100%になりますと、/mail1 に保存ディレクトリが自動的に切り替わり、/mail1 に保存されている“最も古いメールアーカイブデータ”を削除し、新しいメールアーカイブデータを保存いたします。</p>

自動的に保存ディレクトリが切替わるため、3の状態になる前にバックアップを取得しなければ、これまで保存していたメールアーカイブデータが削除されます。

3.1.3. バックアップの運用

GUARDIANWALL に保存されたメールアーカイブデータは、意識的に取得しなければ削除されます。

下記の例を基に、お客様の環境に合わせた取得をお願いいたします。

①期間で区切る

毎月 1 日にスケジューラーを使用して先月分のデータをすべて取得する。

GUARDIANWALL で提供されているスケジューラー機能を使用することで、自動バックアップを取得する設定ができます。この機能により「前月から過去 1 ヶ月分のデータを毎月 1 日に取得する」といったバックアップが可能になります。



操作方法は『GUARDIANSUITE 管理サーバー利用の手引き』「3-2-1-3 拡張機能」をご参照ください。

②容量で区切る

取得したいデータの容量に達したら、手動でバックアップを取得する。

保存時に、任意の期間を選択し「チェック」をクリックすると、バックアップをおこなわずバックアップ対象データの検索結果およびデータサイズを調べることができます。バックアップ先に使用するディスク容量に収まる範囲でデータを取得してください。



操作方法は『GUARDIANSUITE 管理サーバー利用の手引き』「3-2-3-1 バックアップ」をご参照ください。

3.1.4. バックアップ手順

■ バックアップ手順

- ① 手動またはスケジューラーによってバックアップを実行します。
- ② バックグラウンドにてバックアップ処理がおこなわれます。
- ③ 「完了通知」にて通知メールの送信を設定した場合、指定宛先に通知が送られます。
通知メールに正常終了した旨の記載があれば、問題ありません。



初めてバックアップを実行される場合は、必ず通知メールが送られるように設定し、バックアップ処理が正常に終了していることを確認してください。
また、バックアップ処理が正常終了後、リストアを実行してください。



操作方法は『GUARDIANSUITE 管理サーバー利用の手引き』「3-2-1-3 拡張機能」および「3-2-3-1 バックアップ」をご参照ください。



NFS マウント先へのバックアップについては『GUARDIANSUITE 管理サーバー利用の手引き』「6 管理サーバーのデータを NFS に保存する」をご参照ください。

3.1.5. リストア手順

■ リストア手順

- ① リストアをおこないたいデータを選択し、リストアを実行します。
- ② バックグラウンドにてリストア処理がおこなわれます。
- ③ 「完了通知」にて通知メールの送信を設定した場合、指定宛先にリストア処理終了の通知が送られます。通知メールに正常終了した旨の記載があれば、問題ありません。



初めてリストアを実行される場合は、必ず通知メールが送られるよう設定し、リストア処理が正常に終了していることを確認してください。



操作方法は『GUARDIANSUITE 管理サーバー利用の手引き』「3-2-3-2 リストア」をご参照ください。

3.2. AddPoint Manager

3.2.1. AddPoint Managerでできること

AddPoint の Web 管理画面では、以下の機能を利用することができます。

- サーバ管理者のパスワード変更
- システムの稼動状況表示
- AddPointのアップグレード
- 時刻設定
- ログの参照
- システム設定情報の変更/保存/復元
- システムの再起動/停止

3.2.2. AddPoint Managerへの接続

AddPoint Manager は、AddPoint が設置されているネットワークにアクセス可能な Web ブラウザがインストールされているコンピュータから利用できます。使用できる管理用クライアント PC の要件は以下のとおりです。

項目	要件
OS	WindowsXP SP3、Windows Vista SP1/SP2、Windows 7
ウェブブラウザ	Internet Explorer 6、7、8
その他条件	ウェブブラウザの JavaScript が有効であること

Web ブラウザを起動した後、以下の URL を入力して AddPoint Manager を起動します。

【IP アドレスの場合】

http://IP アドレス:1446/addpoint/

【ホスト名の場合】

http://ホスト名.ドメイン名:1446/addpoint/

AddPoint のサーバ名が addpoint.example.com であり、IP アドレスが 192.168.1.10 の場合、以下のいずれかを入力してください。

http://192.168.1.10:1446/addpoint/

http://addpoint.example.com:1446/addpoint



ログイン画面は「2.2.1 システムの稼働状況確認」をご参照ください。



ホスト名でアクセスする場合は、AddPoint が DNS に登録されている必要があります。不明な場合は、ネットワーク管理者にご確認ください。

3.2.3. パスワード変更

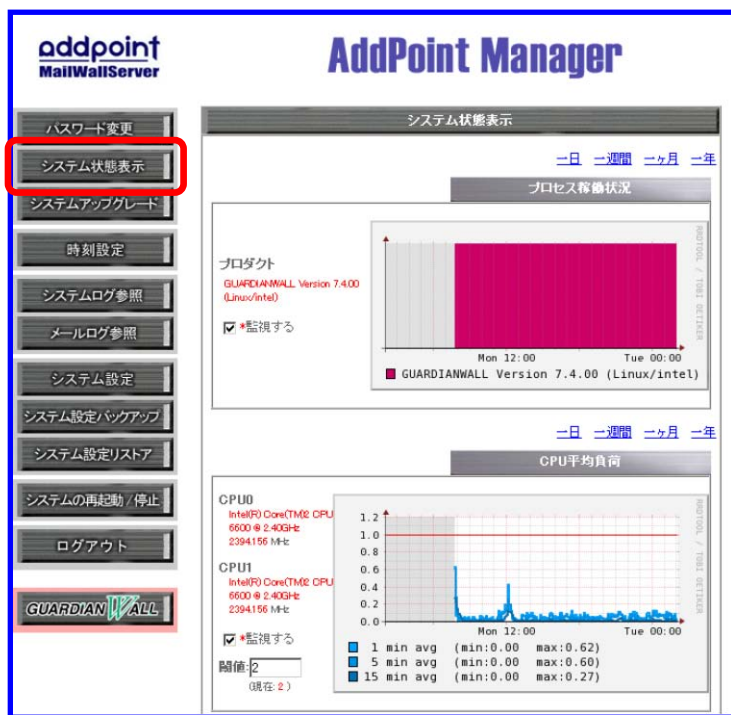
The screenshot displays the AddPoint Manager web interface. On the left, a vertical sidebar contains various system management buttons. The 'パスワード変更' (Change Password) button is highlighted with a red rectangular box. The main content area is titled 'AddPoint Manager' and 'パスワード変更'. It features a sub-header '管理者パスワードの変更' (Change Administrator Password). Below this, there are three input fields: '旧パスワード' (Old Password), '新パスワード' (New Password), and '新パスワード確認' (New Password Confirmation). At the bottom of the form are two buttons: '変更' (Change) and 'リセット' (Reset). The bottom of the sidebar also features a 'GUARDIAN WALL' logo.

AddPoint の管理をおこなうことのできるユーザのパスワードを変更します。

■操作方法

- ① メニューの「パスワード変更」をクリックします。
- ② 「旧パスワード」入力欄に、これまでのパスワードを入力します。
- ③ 「新パスワード」と「新パスワード確認」入力欄に新しいパスワードを入力します。どちらにも同じパスワードを入力してください。
- ④ 「変更」をクリックします。
- ⑤ 変更の確認を求められますので「変更実行」をクリックして、パスワードの変更を完了します。

3.2.4. システム状態表示



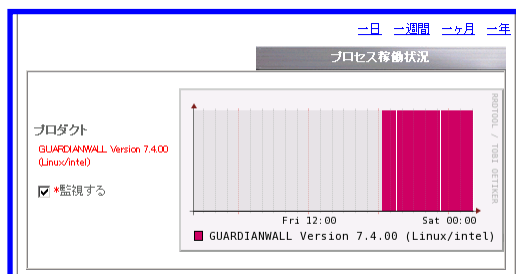
以下の状態を数値とグラフによって確認できます。

- ◆ プログラムの稼働状況
- ◆ システムの平均負荷率
- ◆ メモリ使用量
- ◆ HDD 使用量

また、指定した条件に応じて指定のアドレスに電子メールで通報することができます。

■システム状態確認方法

- ① メニューの「システム状態表示」をクリックします。
- ② 現在時刻から1日分の各種情報のグラフが表示されます。各グラフ上部の「一日」「一週間」「一ヶ月」「一年」をクリックすると、グラフ全体が指定の時間範囲で再表示されます。



■通報設定

各項目を監視する場合は、以下の操作をおこないます。

- ① 項目のグラフ左側に表示されている「監視する」をチェックします。

「閾値」の項目が表示されているパラ

メータについては、併せて通報する条件を指定します。数値または全体

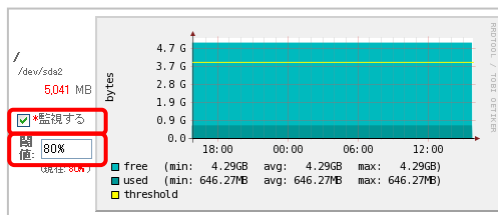
の容量に対する割合で指定することが可能です。

容量の指定では **B、KB、MB、GB、TB** を、割合の指定では **%** を使用してください。

例) 2GB、90MB、80%

- ② 画面下部の「監視設定」で「警告メールを送信する」を選択し、「警告メール送信先」にメールアドレスを指定します。

- ③ 「変更」をクリックします。



Monitoring Settings dialog box. The '警告メールを送信する' (Send warning email) option is selected. The '警告メール送信先' (Warning email destination) field is set to 'addpoint-admin@example.com'.

監視設定

警告メールを送信する (selected)

警告メールを送信しない

警告メール送信先: addpoint-admin@example.com

変更 リセット

3.2.5. システムアップグレード



AddPoint 専用アップグレードパッケージ(addpoint-パッケージ名.adp)を適用することによって、システムにインストールされているソフトウェアのアップグレード、不具合の修正をおこないます。

■操作方法

- ① メニューの「システムアップグレード」をクリックします。
- ② 「参照」をクリックします。
- ③ AddPoint 専用アップグレードパッケージ(addpoint-パッケージ名.adp)を選択し「OK」をクリックします。
- ④ 「適用実行」をクリックします。
- ⑤ アップグレードパッケージの内容を確認する画面が表示されますので、内容を確認した後で「適用実行」をクリックします。

画面上にそれぞれのパッケージによって異なるメッセージが表示されますので、そのメッセージの内容に従ってください。



アップグレードパッケージの形態によって適用方法が異なります。詳しくは、アップグレードパッケージ付属の『リリースノート』をご参照ください。

3.2.6. 時刻設定



ネットワーク上に存在する時刻サーバを使用してサーバの時刻同期をおこなうことができます。

■操作方法

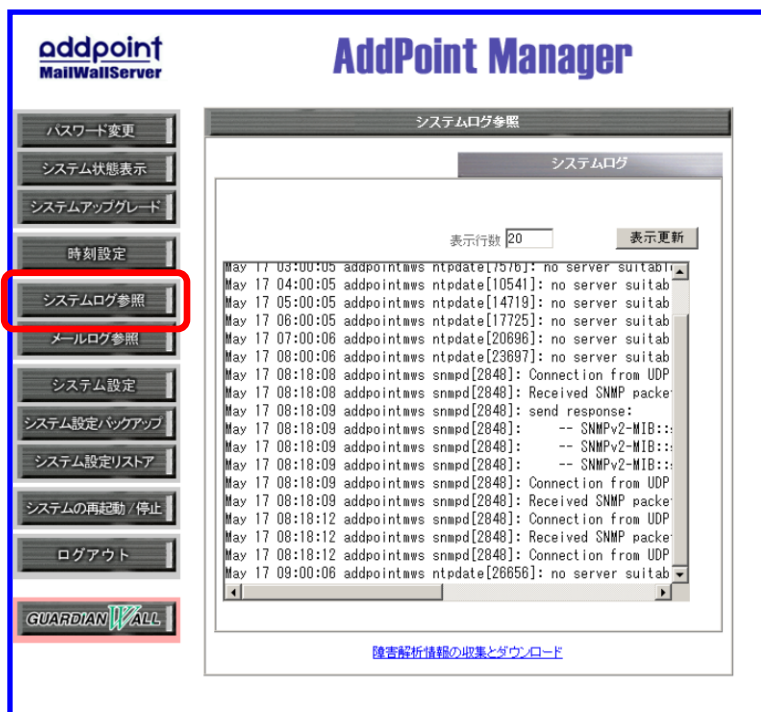
- ① 「自動的に時刻サーバと同期する」をクリックし、「時刻サーバ」に時刻サーバの IP アドレスを入力します。
- ② その場で指定した時刻サーバと時刻を同期させたい場合、「今すぐ更新」をクリックします。
- ③ 「設定」をクリックし、設定を反映します。



注意

「自動的に時刻サーバと同期する」にチェックを入れた場合、毎時に同期処理を実施します。

3.2.7. システムログ参照



システムのログを表示します。このログは障害発生時に障害内容の確認をおこなう場合に使用します。

■操作方法

- ① メニューの「システムログ参照」をクリックします。

画面上にログが表示されます。

デフォルトでは、ログの表示行数は 20 行です。変更したい場合は「表示行数」入力欄に希望の数値を入力し、「表示更新」をクリックしてください。

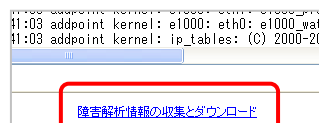


ログの表示行数は 999999 行まで可能です。

■ 障害解析情報の収集方法

AddPoint に障害が発生した場合、保守サポート窓口にてトラブル解析をおこなうためにログの収集をお願いする場合があります。その際には次の方法にてログの収集をおこないます。

- ① 管理画面の一番下にある「障害解析情報の収集とダウンロード」をクリックします。



- ② 確認メッセージが表示されますので「実行」をクリックします。



- ③ 収集された情報がアーカイブファイルとしてダウンロードできますので、保守サポート窓口までお送りください。



収集するデータのサイズによっては、処理に時間がかかる場合があります。その場合は、しばらく時間を置いていただき、システムログ参照画面に「Gathering is done.」と出力されましたら、以下の URL よりダウンロードしてください。

<http://IPアドレス:1446/addpoint/withauth/logbackup/>

または

<https://IPアドレス:1443/addpoint/withauth/logbackup/>

3.2.8. メールログ参照



メールシステムのログを表示します。このログは障害発生時の障害内容の確認をおこなう場合に使用します。

■操作方法

- ① メニューの「メールログ参照」をクリックします。

画面上にログが表示されます。

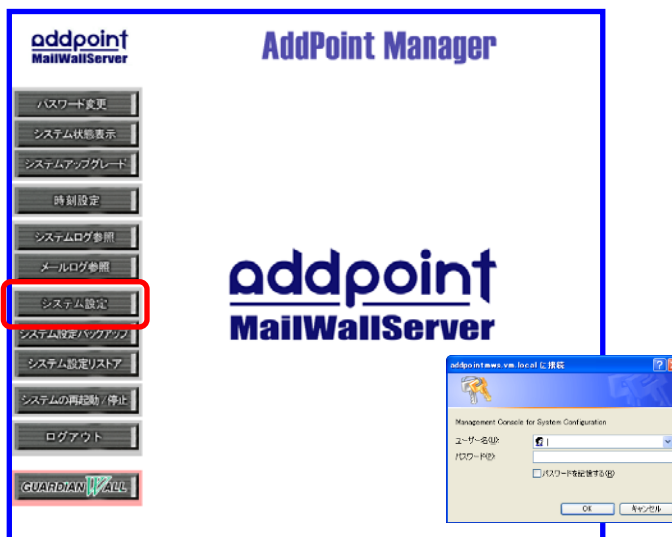
デフォルトでは、ログの表示行数は 20 行となっております。変更したい場合「表示行数」入力欄に希望の数値を入力し、「表示更新」をクリックしてください。



ログの表示行数は 999999 行まで可能です。

管理画面の一番下にある「障害解析情報の収集とダウンロード」は、「3.2.7 システムログ参照」のものと同一です。

3.2.9. システム設定



稼働中のシステムに対して設定変更を行います。

■操作方法

- ① メニューの「システム設定」をクリックします。
- ② 以下の情報を再度入力し、設定変更画面を起動します。

ユーザ名 : root

パスワード : 導入時システム設定画面で指定したパスワード

詳細については、「4.1 システム設定の変更」をご参照ください。



3.2.10. システム設定バックアップ



システム設定のバックアップをおこないます。バックアップは複数保存しておくことが可能です。

■操作方法

- ① メニューの「システム設定バックアップ」をクリックします。
- ② 「バックアップ実行」をクリックします。
- ③ "バックアップを終了しました"のメッセージが表示されましたら作業は終了です。「戻る」をクリックします。
- ④ バックアップファイルは「mailwall-日付時間.tar.gz」としてダウンロードが可能です。



注意

バックアップの対象はログファイルなどのデータではなく、システム設定と GUARDIANWALL 設定に関するファイルとなります。



注意

バックアップファイルは AddPoint 自体にも保存されますが、ディスク障害が発生した場合に失われる恐れがあります。このため、バックアップファイルはダウンロードし、AddPoint 以外のマシンにも保存しておくことを強くお奨めします。

3.2.11. システム設定リストア



「3.2.10 システム設定バックアップ」で作成したバックアップファイルを使用し、システムと GUARDIANWALL の設定をバックアップ時の状態に復旧します。

リストア方法は 2 通りあります。

- ◆ AddPoint に保存されているバックアップファイルからリストア
(ローカルファイルからリストア)
- ◆ 他のマシンにダウンロードしておいたバックアップファイルからリストア
(リモートファイルからリストア)

■操作方法

【ローカルファイルからリストア】

- ① メニューの「システム設定リストア」をクリックします。
- ② リストアを希望するバックアップファイルの日時を選択してください。
- ③ 「リストア実行」をクリックします。
- ④ 実行の確認を促すメッセージが表示されますので、「リストア実行」をクリックします。
- ⑤ リストアした設定を反映するために、AddPoint を再起動してください。

【リモートファイルからリストア】

- ① メニューの「システム設定リストア」をクリックします。
- ② 「参照」をクリックし、バックアップファイルを選択します。
- ③ 実行の確認を促すメッセージが表示されますので、「リストア実行」をクリックします。
- ④ リストアした設定を反映するために、**AddPoint** を再起動してください。

再起動方法は、「**3.2.12 システムの再起動/停止**」を参照してください。



リストアのみを実行し再起動をおこなわない状態で **AddPoint** を運用すると、現在のシステム状態と設定情報との不整合により、システムに不具合が発生する恐れがあります。
リストア後は必ず速やかに再起動をおこなってください。

3.2.12. システムの再起動/停止



一定時間後にシステムを再起動/停止させます。

再起動/停止を選択した場合でも、実行予定時刻まではキャンセルが可能です。

■操作方法

- ① メニューの「システムの再起動/停止」をクリックします。
- ② 入力欄に再起動/停止を何分後に実行させたいかを分単位で記入します。
- ③ 再起動か停止のどちらかを選択します。
- ④ 「実行」をクリックすると設定した時間後に再起動/停止が実行されます。

設定した時間内であれば動作のキャンセルが可能です。その際には「キャンセル」をクリックしてください。

3.2.13. ログアウト

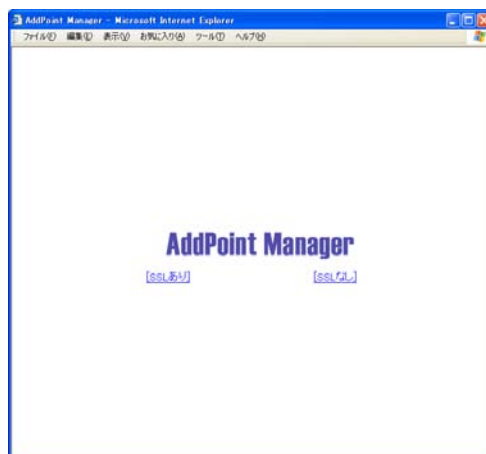


ログアウトし、AddPoint Manager のログイン画面へ戻ります。

■操作方法

- ① メニュー中の「ログアウト」をクリックします。

ログイン前の画面に戻ります。



注意

多くのブラウザでは、ユーザ名やパスワードなどのログイン情報をログイン後も保持しています。

このため、ブラウザからこれらの情報を消去するために、ログアウト後にブラウザを終了していただくことをお奨めします。

3.2.14. GUARDIANWALL 画面の呼び出し



GUARDIANWALL のログイン画面へ移行します。

■操作方法

- ① メニュー中の「GUARDIANWALL」のロゴをクリックします。

GUARDIANWALL のログイン画面が表示されます。



4. 設定変更/システム復旧

AddPoint は、AddPoint Manager からシステム設定情報を変更することができます。本章では、設定変更方法およびシステム復旧手順についてご説明いたします。

4.1. システム設定の変更

4.1.1. システム設定画面の起動

稼働中のシステムに対して設定変更を行います。システム設定の変更は、AddPoint Manager を起動し、メニューの「システム設定」をクリックしてください。

「システム設定」で設定変更が可能な項目は以下のとおりです。設定を変更する項目名のリンクをクリックしてください。

- ◆ ネットワーク設定
- ◆ Hosts ファイル設定
- ◆ アクセス制御設定
- ◆ メール転送設定
- ◆ GUARDIANWALL 設定



システム設定変更の反映時にはサービスが再起動されます。

4.1.2. ネットワーク情報設定

AddPoint のネットワーク基本情報を変更します。変更が必要な項目について入力内容を変更し、「適用」をクリックしてください。(*)がついている項目は必須入力です。

項目	設定内容
ホスト名(FQDN) (*)	AddPoint のホスト名です。「ホスト名」+「ドメイン名」の FQDN で指定します。 通常は"addpoint.example.com"などとなります。
IP アドレス(eth0) (*)	AddPoint の IP アドレス(10 進数表記)を設定します。
サブネットマスク(eth0) (*)	IP アドレス(eth0)のサブネットマスク(10 進数表記)を設定します。
ネットワークアドレス(eth0) (*)	IP アドレス(eth0)のネットワークアドレス(10 進数表記)を設定します。
ブロードキャストアドレス(eth0) (*)	IP アドレス(eth0)のブロードキャストアドレス(10 進数表記)を設定します。
デフォルトゲートウェイ(*)	デフォルトゲートウェイの IP アドレス(10 進数表記)を設定します。



IP アドレスを変更した場合は GUARDIANWALL ライセンスキーの再発行が必要です。インストール媒体に格納されている『AddPoint/MailWallServer ライセンス申請シート』を記入し、再発行を依頼してください。



ライセンスキーの再登録は GUARDIANWALL 管理画面を起動し、以下の画面で行います。

【管理サーバーのライセンス】

「共通」－「管理サーバー管理」－「基本設定」の「ライセンス」タブ

【検査サーバーのライセンス】

「共通」－「検査サーバー管理」－「個別設定」で「設定」をクリックで表示される「ライセンス」タブ

【全文検索のライセンス】

「共通」－「管理サーバー管理」－「基本設定」の「全文検索設定」タブ

AddPoint で複数のネットワークインタフェースを使用する場合に指定します。

運用開始時に vSphere Client を使用してネットワークアダプタ 2 を有効に変更します。

項目	設定内容
IP アドレス(eth1)	2 つ目のネットワークインタフェースの IP アドレス(10 進数表記)を設定します。
サブネットマスク(eth1)	IP アドレス(eth1)のサブネットマスク(10 進数表記)を設定します。
ネットワークアドレス(eth1)	IP アドレス(eth1)のネットワークアドレス(10 進数表記)を設定します。
ブロードキャストアドレス(eth1)	IP アドレス(eth1)のブロードキャストアドレス(10 進数表記)を設定します。

DNS を使用する場合に DNS サーバの IP アドレスを指定します。複数の DNS サーバを使用する場合は 3 件まで指定できます。DNS サーバは 1 番目から順に指定してください。

項目	設定内容
ネームサーバ(1 番目)	1 番目のネームサーバの IP アドレス(10 進数表記)を設定します。
ネームサーバ(2 番目)	2 番目のネームサーバの IP アドレス(10 進数表記)を設定します。
ネームサーバ(3 番目)	3 番目のネームサーバの IP アドレス(10 進数表記)を設定します。

ネットワーク上に存在する時刻サーバを使用したサーバの時刻同期をする場合に時刻サーバの IP アドレスを指定します。メールのヘッダ情報やシステムログなどに記録されるため、時刻サーバの使用を推奨しています。

項目	設定内容
時刻サーバ	時刻サーバの IP アドレス(10 進数表記)を設定します。

addpoint
MailWallServer

設定メニュー
ネットワーク設定
ホスト設定
アクセス制御設定
メール転送設定
GUARDIANWALL設定

AddPoint Manager Config Console for System Configuration
Host: addpointmws.vm.local

ネットワーク設定 [ヘルプ](#)

■ ネットワーク設定

システムのネットワーク基本情報を設定します。

LAN1(eth0)ネットワーク、LAN2(eth1)ネットワーク、名前解決(DNS)サーバ、時刻サーバの設定をします。
*の付いている項目は、必須入力です。

*ホスト名(FQDN):	addpointmws.vm.local
*IPアドレス(eth0):	192.168.0.100
*サブネットマスク(eth0):	255.255.255.0
*ネットワークアドレス(eth0):	192.168.0.0
*ブロードキャストアドレス(eth0):	192.168.0.255
*デフォルトゲートウェイ:	192.168.0.254
IPアドレス(eth1):	
サブネットマスク(eth1):	
ネットワークアドレス(eth1):	
ブロードキャストアドレス(eth1):	
ネームサーバ(1番目):	
ネームサーバ(2番目):	
ネームサーバ(3番目):	
時刻サーバ:	

メニューへ 適用

4.1.3. hostsファイル設定

DNS に登録されていないホストに対して、ホスト名による参照をしたい場合に指定します。AddPoint 自身の情報を指定する必要はありません。本項目は 10 件まで指定できます。必要な情報を入力し、「適用」をクリックしてください。

項目	設定内容
IP アドレス	hosts ファイルによる名前解決をするホストの IP アドレス (10 進数表記)を指定します。
ホスト名(FQDN)	IP アドレスに対応するホスト名です。「ホスト名」+「ドメイン名」の FQDN で指定します。
別名	「ホスト名(FQDN)」以外で参照する場合に指定します。

AddPoint Manager Config Console for System Configuration
Host: addpointmws.vm.local

hostsファイル(別名)設定

■ hostsファイル(別名)設定

hostsファイル(別名)の設定をします。

	IPアドレス	ホスト名(FQDN)	別名
設定1:			
設定2:			
設定3:			
設定4:			
設定5:			
設定6:			
設定7:			
設定8:			
設定9:			
設定10:			

メニューへ

適用

4.1.4. アクセス制御設定

AddPoint に対するアクセスを制限する場合に指定します。本設定により意図しないホストから AddPoint Manager へのアクセスや電子メールの中継などを防ぐことができます。

アクセス制御をしない場合は指定する必要はありませんが、すべてのホスト、端末からもアクセスが可能となります。

必要な情報を入力し、「適用」をクリックしてください。(*)がついている項目は必須入力です。

項目	設定内容
アクセス制御の有無(*)	アクセス制御をする場合は、「アクセス制御をする」を指定します。アクセス制御をしない場合は、「アクセス制御をしない」を指定します。

アクセス制御をする場合は、指定した IP アドレス以外からのアクセスは Linux の iptables により接続が拒否される設定となります。

AddPoint Manager にアクセスする端末や AddPoint へメールを転送するサーバなどの AddPoint への接続をするサーバを指定します。AddPoint の次段のメールサーバなどの AddPoint から接続をするサーバは指定する必要はありません。

指定は必ず IP アドレスとサービスを 1 組として、それぞれ 1 組以上を指定します。本項目は 10 件まで指定できます。

項目	設定内容
IP アドレス(マスク)	アクセスを許可する IP アドレス(10 進数表記)を指定します。
プロトコル	アクセスを許可するサービスを以下の 3 項目から指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 電子メール(SMTP) ● Web アクセス(HTTP/SSL) ● その他
ポート番号	「プロトコル」で「その他」を指定した場合に許可する「ポート番号」を指定します。
プロトコル制限	「プロトコル」で「その他」を指定した場合に許可するプロトコルを以下から指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 制限なし ● TCP のみ ● UDP のみ

addpoint
MailWallServer

設定変更
ネットワーク設定
hostsファイル設定
アクセス制御設定
メールセキュリティ設定
GUARDIANWALL設定

AddPoint Manager Config Console for System Configuration
Host: addpointmws.vm.local

アクセス制御設定 [ヘルプ](#)

■ アクセス制御設定

アクセス制御の設定をします。
*の付いている項目は、必須入力です。

*アクセス制御の有無: ☒ アクセス制御をしない
☐ アクセス制御をする

	IPアドレス(マスク)	プロトコル	ポート番号	プロトコル制限
設定1:	<input type="text"/>	<選択>	<input type="text"/>	<選択>
設定2:	<input type="text"/>	<選択>	<input type="text"/>	<選択>
設定3:	<input type="text"/>	<選択>	<input type="text"/>	<選択>
設定4:	<input type="text"/>	<選択>	<input type="text"/>	<選択>
設定5:	<input type="text"/>	<選択>	<input type="text"/>	<選択>
設定6:	<input type="text"/>	<選択>	<input type="text"/>	<選択>
設定7:	<input type="text"/>	<選択>	<input type="text"/>	<選択>
設定8:	<input type="text"/>	<選択>	<input type="text"/>	<選択>
設定9:	<input type="text"/>	<選択>	<input type="text"/>	<選択>
設定10:	<input type="text"/>	<選択>	<input type="text"/>	<選択>

[メニューへ](#) [適用](#)

4.1.5. メール転送設定

AddPoint から配送されるメールの送信先を指定します。メールの転送先は、以下の順序で適用されます。

1. あて先メールアドレスのドメイン名が「サーバ・ドメイン別転送設定」の「ドメイン名/ホスト名」にマッチする場合は、そのエントリの「転送先ホスト名」に転送します。
2. あて先メールアドレスのドメイン名が受信メールドメインに含まれる場合は、「受信メール設定」の「ホスト名」に指定したホストに転送します。
3. 上記のいずれにも当てはまらない場合は、「発信メール設定」の「ホスト名」に指定したホストに転送します。

必要な情報を入力し、「次へ」をクリックしてください。(*)がついている項目は必須入力です。

項目	設定内容
受信メール設定 (*)	内部あてのメールの転送先サーバホストの IP アドレス(10 進数表記)、またはホスト名(FQDN)を指定します。 AddPoint を内部から外部あてメールのみに適用するなど、内部あてのメールが AddPoint を通過しない場合は「指定しない」を指定します。
受信メールドメイン設定 (*)	内部のメールアドレスに使用しているドメイン名を指定します。本項目は 10 件まで指定できます。
発信メール設定 (*)	内部から外部あてのメールの転送先ホストを指定します。 外部あてのメールを MX 配送する場合は、「AddPoint が直接発信」を指定します。 「発信メール設定」の「ホスト名」は、IP アドレス(10 進数表記)またはホスト名(FQDN)を指定します。
サーバ・ドメイン別転送設定	特定のドメインまたはホストあてのメールを「受信メール設定」「発信メール設定」の「ホスト名」に指定したホスト以外のメールサーバに転送する場合に指定します。 「種別」は"host"、"domain"のいずれかを指定します。 host: "xxx@<ホスト名>"にマッチします domain: "xxx@<サブドメイン名>.<ドメイン名>"にマッチします 転送先ホスト名は、IP アドレス(10 進数表記)またはホスト名(FQDN)を指定します。本項目は 10 件まで指定できます。

addpoint
MailWallServer

設定変更
ネットワーク設定
hostsファイル設定
メール転送設定
GUARDIANWALL設定

AddPoint Manager Config Console for System Configuration
Host: addpointmws.vm.local

メール転送設定 [ヘルプ](#)

■メール転送設定

受信メール設定、発信メール設定、サーバ・ドメイン別転送設定をします。
※の付いている項目は、必須入力です。

*受信メール設定: ☒ 指定しない
☐ 受信メール転送先ホストを指定 ホスト名:

*受信メールドメイン設定:

ドメイン1:	<input type="text" value="vm.local"/>	ドメイン2:	<input type="text"/>
ドメイン3:	<input type="text"/>	ドメイン4:	<input type="text"/>
ドメイン5:	<input type="text"/>	ドメイン6:	<input type="text"/>
ドメイン7:	<input type="text"/>	ドメイン8:	<input type="text"/>
ドメイン9:	<input type="text"/>	ドメイン10:	<input type="text"/>

*発信メール設定: ☒ AddPointが直接発信
☐ 発信メール転送先ホストを指定 ホスト名:

サーバ・ドメイン別転送設定:

	ホスト名ドメイン名	種別	転送先ホスト名
転送設定1:	<input type="text"/>	<input type="text" value="〈選択〉"/>	<input type="text"/>
転送設定2:	<input type="text"/>	<input type="text" value="〈選択〉"/>	<input type="text"/>
転送設定3:	<input type="text"/>	<input type="text" value="〈選択〉"/>	<input type="text"/>
転送設定4:	<input type="text"/>	<input type="text" value="〈選択〉"/>	<input type="text"/>
転送設定5:	<input type="text"/>	<input type="text" value="〈選択〉"/>	<input type="text"/>
転送設定6:	<input type="text"/>	<input type="text" value="〈選択〉"/>	<input type="text"/>
転送設定7:	<input type="text"/>	<input type="text" value="〈選択〉"/>	<input type="text"/>
転送設定8:	<input type="text"/>	<input type="text" value="〈選択〉"/>	<input type="text"/>
転送設定9:	<input type="text"/>	<input type="text" value="〈選択〉"/>	<input type="text"/>
転送設定10:	<input type="text"/>	<input type="text" value="〈選択〉"/>	<input type="text"/>

[メニューへ](#) [適用](#)

4.1.6. GUARDIANWALL設定

GUARDIANWALL に関する設定を指定します。(*)がついている項目は必須入力です。
必要な情報を入力し、「適用」をクリックしてください。

項目	設定内容
ログリストア領域設定 (*)	「ログリストア領域」は、GUARDIANWALL でバックアップされた保存メールを閲覧する際に必要となる領域です。使用する場合は「ログリストア領域を設定する」を指定し、ログリストア領域用ディスク(/dev/xxx)を指定します。



4.2. システム復旧

AddPoint は、ハードディスクの障害などにより復旧不能になった場合、インストール媒体から OVF テンプレートの再デプロイによってシステムの再構築をおこなうことができます。次項に従って、システム復旧を実施してください。

4.2.1. インストール媒体からの再デプロイ

インストール媒体に格納されている OVF テンプレートを vSphere Client 管理画面からデプロイを実行し、AddPoint システム設定画面で導入時に設定した情報を再度設定します。

詳細については『AddPoint/MailWallServer V7.2 for VMware 導入の手引き』を参照してください。

4.2.2. システム設定の復旧

「3.2.10 システム設定バックアップ」によりシステム設定がリモートのローカルディスクにバックアップされている場合、バックアップ時点の設定に復旧することができます。

「4.2.1 インストール媒体からの再デプロイ」によって導入時の状態に復旧後、「3.2.11 システム設定リストア」の「リモートファイルからリストア」に従って、設定をリストアしてください。



システム設定リストア前に、システムアップグレードパッケージの適用の有無をご確認ください。
現在のアップグレードパッケージの適用状況と、システム設定バックアップ取得時の適用状況とが異なると、注意メッセージが出力されます。

システム設定を取得していない場合は、「2.3.3 全文検索インデックス作成設定」以降の GUARDIANWALL の設定をおこなってください。

4.2.3. メールアーカイブデータのリストア

「3.1.5 リストア手順」をご参照いただき、メールの閲覧の必要がある場合はメールアーカイブデータをリストアしてください。

5. QA

ここでは、**AddPoint** で障害が発生した場合の対処方法について説明いたします。

説明にしたがって対処頂いても症状が改善されない場合は、保守サポートまたはお買い上げの販売店までご連絡ください。

5.1. ネットワーク関連

5.1.1. AddPoint にアクセスできない

以下の点をご確認ください。

◆ **AddPoint および管理用コンピュータの LAN ケーブル接続状況**

LAN ケーブルがきちんと接続されているか、ネットワークポート/ハブなどのリンク LED の点灯状況はどのようになっているかなどをご確認ください。

◆ **ルータやファイアウォールなどによるパケットフィルタリング設定**

一般的な HTTP ポートとは異なり、AddPoint の Web 管理画面は 1446 番および 1443 番を、GUARDIANWALL は 8080 番および 8443 番を使用しております。これにより、ルータやファイアウォール越しに HTTP 接続ができない場合があります。

	送信元		宛先	
	IP アドレス	ポート	IP アドレス	ポート
管理用コンピュータ →AddPoint	管理用コンピュータの IP アドレス	*	AddPoint の IP アドレス	1443 1446 8080 8443
AddPoint → 管理用コンピュータ	AddPoint の IP アドレス	1443 1446 8080 8443	管理用コンピュータの IP アドレス	*

パケットフィルタリングなどについては、ネットワーク管理者にご相談ください。

◆ **AddPoint のアクセス制御設定**

AddPoint のアクセス制御機能を使用している場合は、特定のコンピュータ以外ではアクセスできません。管理用コンピュータの IP アドレスがアクセス許可リストに含まれているかどうかをご確認ください。

また Web プロキシ経由で接続をおこないますと、接続元 IP アドレスは Web プロキシのものとなりますので、ご注意ください。

◆ **ネットワーク設定**

AddPoint、管理用コンピュータ双方のネットワーク設定に誤りがないかをご確認ください。

5.1.2. メールが送信されない

以下の手順にしたがって確認をおこなってください。

- ① AddPoint サーバを SMTP サーバとし、メールを送信してください。
- ② GUARDIANWALL の Web 管理画面より

「情報管理者」

－「共通」

－「検査サーバー管理」

－「状況確認」

－「詳細」

－「メール配送確認」

を選択してください。

以下のような画面が表示されますので、(a)メール配送状況欄に送信したメールのエントリがあるかどうかを確認してください。

エントリがない場合は、メールが AddPoint に対して送信されていません。

メールの経路や、AddPoint のアクセス制御機能などをご確認ください。

- ③ (b)に以下のようなエントリが表示される場合は、AddPoint から次のメールサーバへの配送に失敗しています。その際には、AddPoint のメール配送設定の見直しをおこなうか、メールサーバ/ネットワーク管理者にご相談ください。

GUARDIAN SUITE

情報管理者メニュー
管理者名: admin

共通

■ 管理サーバー管理

■ 検査サーバー管理

■ 状況確認

■ データ管理

■ 運用監視

■ 実行記録

■ メール配送

■ リストア実行記録

■ リストアメール配送

■ メール

■ ウェブ

■ パスワード変更

■ ログアウト

状況確認 - addpointmws5.mail.test (メール)

共有

稼働状況 | メール配送状況 | ディスク使用量 | システムログ | パーformance情報

■ メール配送状況 2007年09月04日 (最新10件)

時刻	送信先	宛先	サイズ	送信記数	動作
18:21:52	user01@mail.test	user01@mail.test	636	9999	中継

○ 宛先者、宛先はエンベロープアドレスを表示しています。宛先が複数ある場合は1つだけ表示しています。

■ sendmail Mail Queue List (mailq -v)

/var/spool/mailqueue is empty
Total requests: 0

○ mailq -v コマンドの出力から先頭20行を表示しています。

一覧に戻る

Copyright(C) 2005-2006 Canon System Solutions Inc. All rights reserved.

エラーメッセージ	原因と対処法
(Deferred: [メールサーバ]: No route to host)	<p>AddPoint と[メールサーバ]の間で TCP/IP による接続ができませんでした。 以下の項目をご確認ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● AddPoint のネットワーク設定(サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなど) ● ルータ・ファイアウォールによるパケットフィルタリング設定 ● SMTP サーバのパーソナルファイアウォール設定 <p>など。</p>
(Deferred: Connection refused by [メールサーバ])	<p>[メールサーバ]との SMTP 接続が確立できませんでした。 以下の項目をご確認ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SMTP サーバの SMTP サービス稼働状況 ● SMTP サーバによる SMTP 接続元制限 <p>など。</p>
(host map: lookup ([ドメイン]): deferred)	<p>メールの MX 配送をおこなう際に、DNS による参照ができませんでした。 以下の項目をご確認ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● AddPoint の DNS サーバ設定 ● DNS サーバの稼働状況 <p>など。</p>

④ AddPoint より先のメールサーバにて、テストメールの配送状況を確認してください。

また、転送先のメールサーバにて SMTP AUTH や POP before SMTP などがおこなわれている場合、メールが正常に送信されません。

5.2. AddPoint Manager関連

5.2.1. 障害解析情報をダウンロードできない

AddPoint Manager で障害解析情報の収集とダウンロードを実行した際に、収集処理に時間を要し、完了しても画面に何も表示されない状態となる場合があります。

以下の手順にて収集処理の完了を確認していただき、障害解析情報を取得してください。

- ① 障害解析情報の収集処理が完了しているか確認します。

AddPoint Manager にログインし、「システムログ参照」をクリックします。

システムログに以下のログが出力されていた場合、収集処理は完了しています。
出力されていない場合は、10 分程度時間を空けて再度確認してください。

```
<YYYYMMDDHHMM><ホスト名> logger: =====
<YYYYMMDDHHMM><ホスト名>logger: Please send the following file to the support team
<YYYYMMDDHHMM><ホスト名>logger:
<YYYYMMDDHHMM><ホスト名>logger:      /var/www/html/addpoint/withauth/logbackup/safeattach-logsv-<YYYYMMDDHHMM>.tar.gz
<YYYYMMDDHHMM><ホスト名>logger:
<YYYYMMDDHHMM><ホスト名>logger: and type following command to delete:
<YYYYMMDDHHMM><ホスト名>logger:
<YYYYMMDDHHMM><ホスト名>logger:      rm -f /var/www/html/addpoint/withauth/logbackup/safeattach-logsv-<YYYYMMDDHHMM>.tar.gz
<YYYYMMDDHHMM><ホスト名>logger:
```

- ② Web ブラウザの URL 入力欄に以下を入力してください。

<SSL なし>

http://<AddPoint サーバの IP アドレス>:1446/addpoint/withauth/logbackup/

<SSL あり>

https://<AddPoint サーバの IP アドレス>:1443/addpoint/withauth/logbackup/

※認証確認があった場合は、AddPoint Manager にログインするための ID とパスワードを入力してください。

- ③ "Index of /addpoint/withauth/logbackup"画面に遷移するので、一覧から mailwall-logsv-YYYYMMDDHHMM.tar.gz が存在しているか確認してください。
ファイル名のリンクをクリックすることでダウンロードが可能です。